



八代市景観まちづくり提言書



八代市景観まちづくり会議

美しい海、雄大な河川、四季が移ろう山々
先人たちより受け継がれた歴史や文化
暮らしや生業が育んだ街並み

普段、何気なく目にしていた八代の景観について改めて考え

そして、気づきました

私たちは、八代が大好きであることを
たくさんの守るべき大切な景観があることを

誇れる八代を後世へ残していく

そのために、出来ることから少しずつ始めます
私たちの景観まちづくり

八代市景観まちづくり会議メンバー 一同



目 次

1. はじめに	1
(1) 景観まちづくりとは?	1
(2) “お宝景観”と“眺めの小路”とは?	2
2. 景観まちづくり会議の開催	2
3. “眺めの小路”からはじめる景観まちづくり	4
(1) 私たちが考えた“眺めの小路”の場所	4
(2) “眺めの小路”の魅力向上に向けて	5
4. “眺めの小路”ごとの景観のあり方	6
5. おわりに	19
(1) 景観全般やまちづくり全般に対する意見	19
(2) 会議を終えた感想	20
(3) 今後の活動に向けて	21
参考資料	22
[八代市景観まちづくり会議のメンバー]	22

1. はじめに

(1) 景観まちづくりとは？

私たち「八代市景観まちづくり会議」のメンバーは、まちづくり協議会から依頼を受けたり、所属団体の代表として参加したり、市の公募に応募したりなど、様々な分野から集まりました。

住んでいる地域や立場は様々ですが、「わがまち八代」を誇る気持ちと、より良いまちにしたいという思いは同じです。

私たちの活動は、平成29年7月に開催された「やつしろ景観まちづくりセミナー」に参加することから始まりました。

セミナーのはじめに、「景観とは何か？景観まちづくりとは何か？景観法で決められることは何か？」など、熊本県立大学の柴田祐教授から景観に関する基礎知識を学び、八代市の良い眺めについて話し合いました。

あらためて、私たちのまちには身近に価値のある景観資源がたくさんあることに気がつきました。

景観は姿形（すがたかたち）の表面的なものではなく、地域のあり方が問われるものです。

自分ひとりの意思だけではどうにもならないことでも、同じ意思を持った人が協力することで景観は変わっていきます。

誰もが足を止め、「美しい」、「心地よい」と感じる場所には、その地域に暮らす人々の景観への地道な活動があります。

景観まちづくりとは、単に美しく、魅力的な空間をつくることだけではなく、そこに住み、働く人のいきいきとした生活や活動を目指すものです。

そのために、私たちには何ができるのか、行政には何ができるのか、共に地域の景観まちづくりを考えていきましょう。

この提言書は、景観まちづくり会議において、八代の景観そのものや景観まちづくり活動などに対する私たちの思いを出し合い、話し合った結果をまとめたものです。

今後、地域ごとの景観まちづくりや市民・事業者・行政の協働による景観まちづくりの羅針盤として、役立てていただければ幸いです。



▲やつしろ景観まちづくりセミナーの様子

(2) “お宝景観”と“眺めの小路”とは？

私たちは、八代の景観を考えるにあたって、“お宝景観”と“眺めの小路”という2つの視点を用いることにしました。

“お宝景観”

海・河川・山並み・夕日などの美しい自然、歴史的まちなみや文化遺産、地域の原風景など、他の人に誇りたい景観。また、今後、他の人に誇れるように磨きをかけていきたい景観。

“眺めの小路”

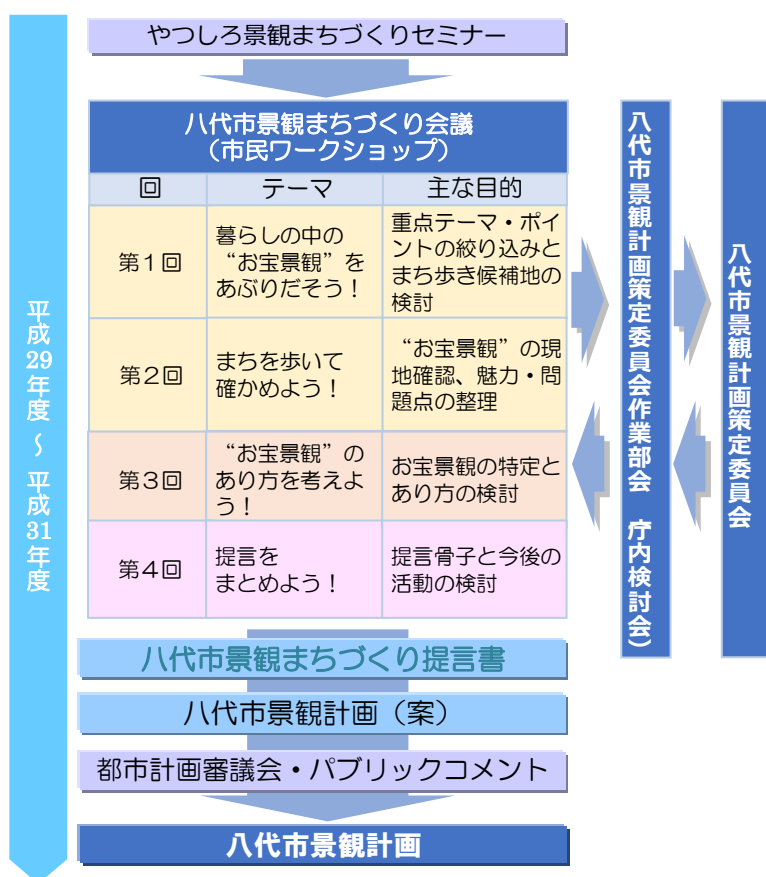
“お宝景観”を眺め、楽しみながら歩くことができる小路であり、景観まちづくりの活動の場。

景観まちづくり会議では、“お宝景観”を守り育てる景観まちづくりが大切だという考えから、この“お宝景観”が連続して集まる“眺めの小路”に焦点を当て、提言書をまとめることとしました。

2. 景観まちづくり会議の開催

景観まちづくり会議は、景観計画へ市民意見を取り入れるための組織として位置づけられています。

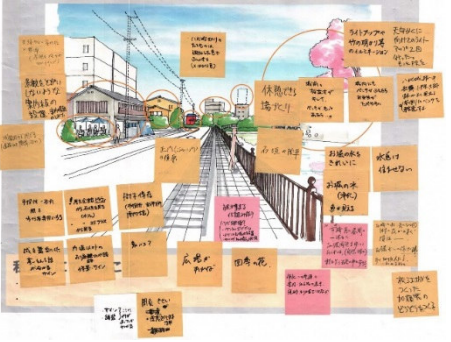
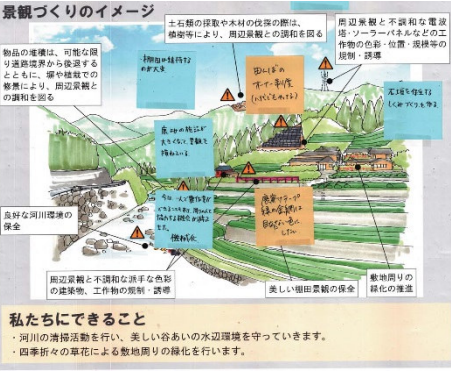
景観まちづくり会議は、計4回実施し、ワークショップ※¹だけでなく、実際に市内のまち歩きも行いました。以下に私たちの活動結果をまとめます。



▲景観まちづくり会議の様子

※1：ワークショップ：参加者が対等な関係で共同作業を通して意見を出し合い、一定の合意をつくっていく、創造的な会議です。

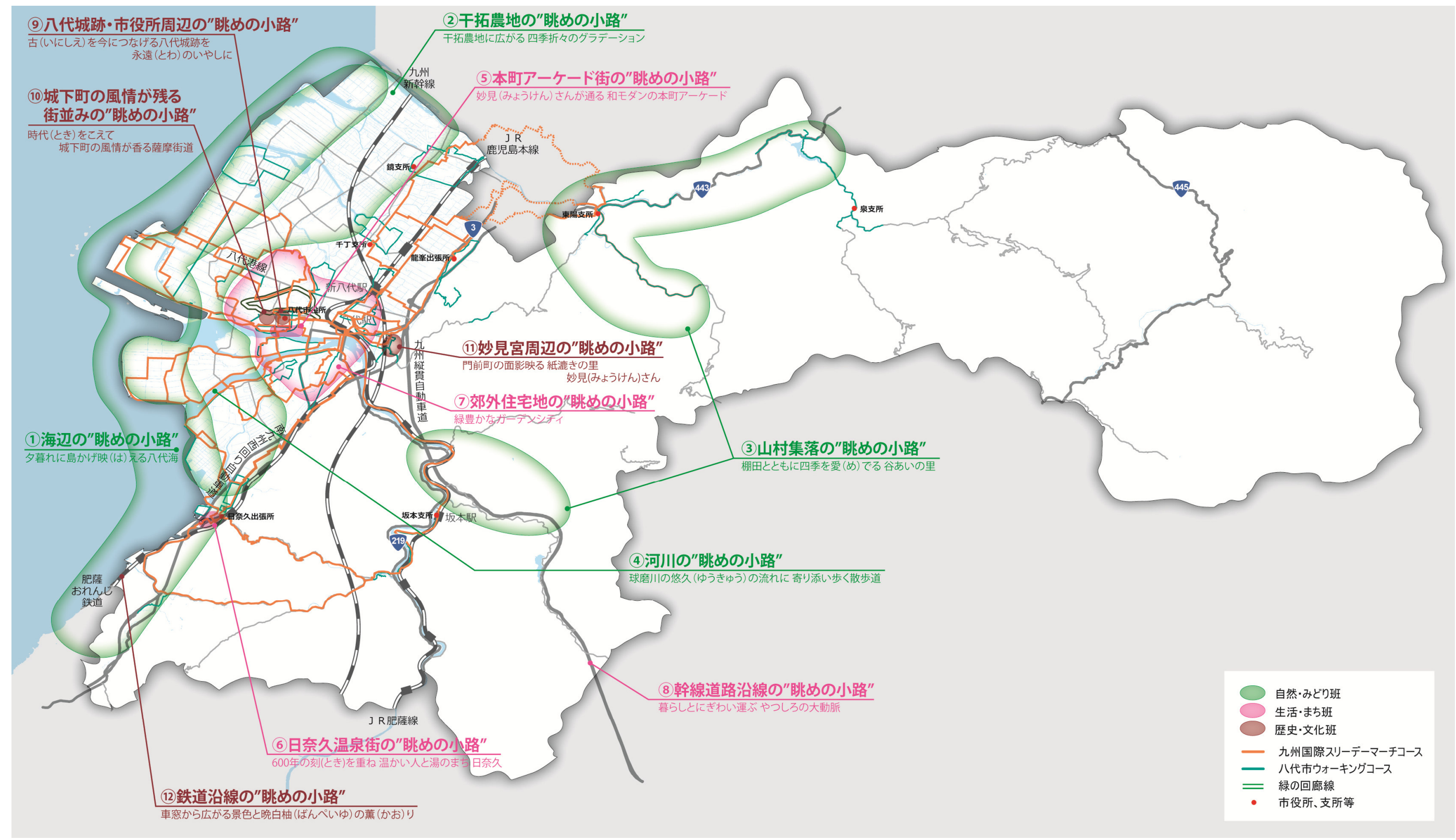
▼会議の概要

回		日程	検討内容および結果
第1回	H29.9.5	■テーマ 暮らしの中の“お宝景観”をあぶりだそう！ ～重点テーマ・ポイントの絞り込みとまち歩き候補地の検討～ ■検討内容 『自然・みどり』、『生活・まち』、『歴史・文化』の重点テーマごとに各2班の合計6班に分かれて、お宝景観や気になっている景観について話し合いました。 ■検討結果 景観に対する考え方も人それぞれで、八代の良い景観を守り育てるだけでなく、気になる景観を改善することや良い景観をアピールすること必要との意見があがりました。テーマを超えて多くの人が共感したことから、「知る人ぞ知る」穴場スポットまで、八代ならではのお宝景観を再発見することができました。	  
第2回	H29.10.14	■テーマ まちを歩いて確かめよう！ ～“お宝景観”の現地確認、魅力・問題点の整理～ ■検討内容 第1回会議で挙げた“良い景観・気になる景観”について実際に現場を見てまわりました。ポイントとなる箇所では、参加メンバーのうち詳しい方から見どころや歴史などについて説明がありました。 ■検討結果 まち歩きでは、八代の“お宝景観”を再確認・再発見することができました。会場に戻ってからのグループワークでは、景観のベストシーン・ワーストシーン、良い景観を活かす工夫、気になる景観を改善するアイデアなどの意見交換を行い、景観の魅力・問題点について理解を深めることができました。	   
第3回	H30.1.24	■テーマ “お宝景観”のあり方を考えよう！～お宝景観の特定とあり方の検討～ ■検討内容 会議の冒頭、熊本県立大学の柴田祐教授から“眺めの小路”を活用した景観まちづくりの取り組みについて紹介がありました。グループワークでは、第2回会議の意見を踏まえ設定した12エリアについて、各エリアにおける“眺めの小路”からの景観のあり方を検討しました。 ■検討結果 各エリアのキャッチフレーズ（キーワード）や景観まちづくりの方向性・ルール、自分達ができる景観まちづくり活動について意見を出し合いました。	  
第4回	H30.2.28	■テーマ 提言をまとめよう！～提言骨子と今後の活動の検討～ ■検討内容 熊本県立大学の柴田祐教授から、八代市のお宝景観の維持・保全についてお話があり、他事例の取り組みを紹介していただきました。グループワークでは、これまでの会議で出された意見を取りまとめた「八代市景観まちづくり提言書（案）」をもとに、内容の確認を行いました。 ■検討結果 全体キャッチコピーや“眺めの小路”毎のキャッチフレーズ、自分達ができる景観まちづくり活動について意見を出し合いました。また、提言書を市民に向けて広くプレゼンする場となる「景観まちづくりシンポジウム」の発表者を決めました。	  

3. “眺めの小路”からはじめる景観まちづくり

(1) 私たちが考えた“眺めの小路”の場所

景観まちづくり会議では、3班（自然・みどり班、生活・まち班、歴史・文化班）に分かれ、市内の代表的・典型的な12の“眺めの小路”について、望ましい景観のあり方を考えました。その場所や位置については、以下の地図のようになっています。



▲各班で検討した“眺めの小路”の位置

(2) “眺めの小路”の魅力向上に向けて

1) “眺めの小路”のキャッチコピー

私たちが考えた“眺めの小路”を、市民や訪れる多くの方々に興味を持ってもらうために、メンバー全員で、キャッチコピーを考えました。

このキャッチコピーは、提言書のほか、今後の景観まちづくりに対する重要なキーワードとして位置づけることにしています。

キャッチコピー

風景をつなぎ 人が輝く “眺めの^{こみち}小路”

八代市内には、守り育てていきたい“お宝景観”が数多くあります。また、“お宝景観”を眺め、楽しみながら歩くことができる“眺めの小路”がいくつも張り巡らされています。これら“眺めの小路”は、風景をつなぎ、景観まちづくり活動の舞台となるものです。景観まちづくりの活動を通じて、そこに住み、働く人がいきいきと輝けるようにとの思いを込めています。

2) 私たちにできること

“眺めの小路”ごとの景観のあり方を考える際に、私たちがどう行動すればより良い景観になるのかについて、私たちにできることも一緒に話し合いました。

その結果、

- ゴミの清掃や草刈り、花植えなどを行うこと
- 地域の歴史や眺望スポット、イベントなどをインターネットやSNS等の既存のメディアを活用して伝えること
- 笹垣や生垣などの手入れを地域で行うこと
- 歴史的資源と調和した「和」が感じられる雰囲気づくりを行うこと（い草、竹・木材、のれん、灯籠など）
- 河川や八代城跡のお堀の水、紙漉き水路などの水を綺麗にする活動を行うこと

等の意見が出されました。

これからの八代市の景観まちづくりに向けて、まだまだ、私たちにできることがあると気づきました。

次ページ以降では、これらの意見を“眺めの小路”ごとにまとめています。

4. “眺めの小路” ごとの景観のあり方

■ “眺めの小路” ごとのイメージシートの見方

①キャッチフレーズ “眺めの小路” とその周辺エリアのイメージを一言で表す文言

②キャッチフレーズの説明 キャッチフレーズに込めた思い

③特性

“眺めの小路” とその周辺エリアの特徴

④位置図

“眺めの小路” と
その周辺エリアの位置

⑤写真

“眺めの小路” とその周辺エリアの特徴的な景観の写真

景観まちづくりのイメージ

⑥景観まちづくりのイメージ

“眺めの小路” とその周辺エリアにおける
景観のイメージ図を基にした
景観まちづくりに必要な対策や取り組み

⚠：景観形成において好ましくないもの

(※注) あくまで、一つの考え方を示したものであり、
今後の景観の在り方を決定するものではありません。

⑦私たちにできること

市民ができる景観まちづくり活動

①海辺の“眺めの小路”

は 夕暮れに島かげ映える八代海

海辺は、夕日に映える美しい八代海や干潟、三ツ島・雲仙・天草の島々を眺めることができます。
八代海を背景にした工場群やクルーズ船、名勝や干潟の眺めを守り育てることが大切だと考えています。

特性

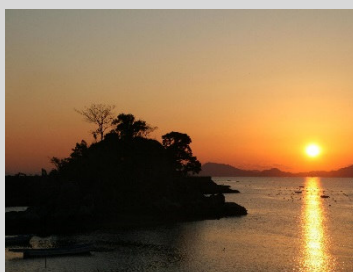
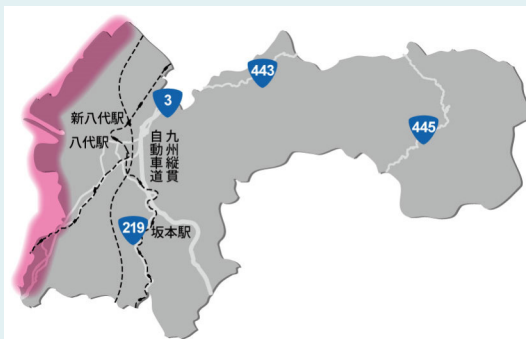
雄大な八代海と、干潟の海辺景観を楽しむ“眺めの小路”です。

八代港からは三ツ島・雲仙・天草への眺望や、八代海を背景にした工場群やクルーズ船の景観が楽しめます。

海域が市の西側一帯に広がっているため、各所から八代海に映える美しい夕日を眺めることができます。

国指定名勝「不知火及び水島」は、夕日と干潟をセットで見ることができる眺望スポットとなっています。

干潟には多くの貴重な干潟生物が生息し、シギ・チドリ類の飛来地となっています。



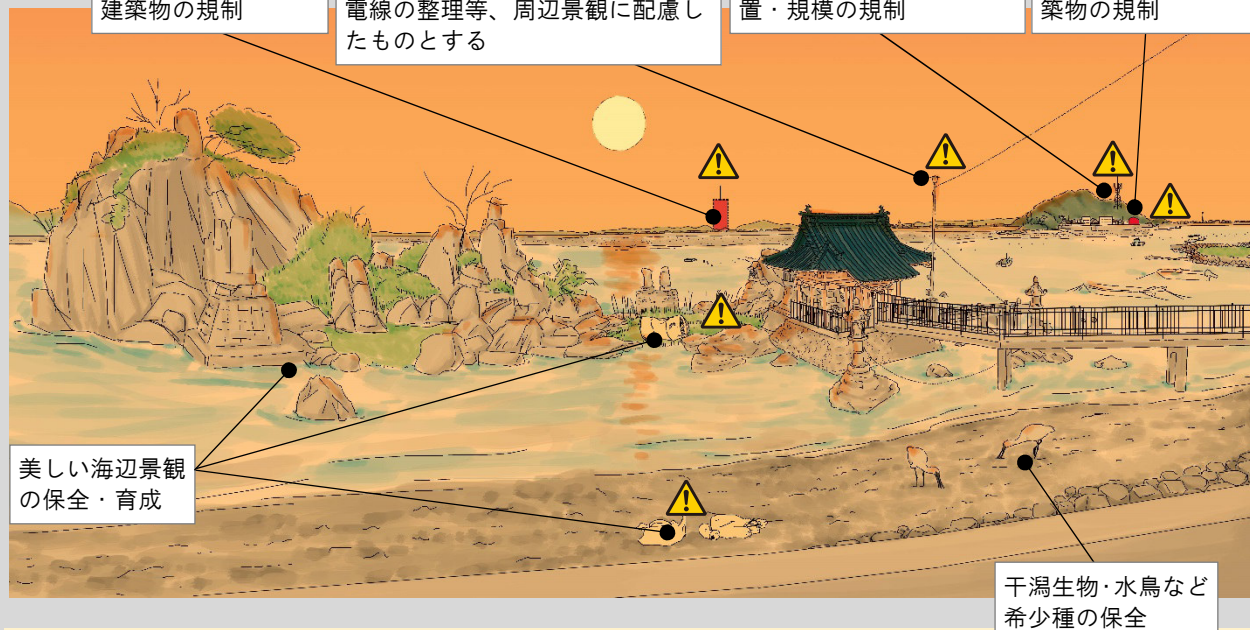
景観まちづくりのイメージ

周辺景観と不調和な
派手な色彩・規模の
建築物の規制

電線や電柱は、災害にも配慮しつ
つ、地域の機運の高まりに応じて、
電線の整理等、周辺景観に配慮し
たものとする

周辺景観と不調和な電波
塔などの工作物の色彩・位
置・規模の規制

周辺景観と不調和
な派手な色彩の建
築物の規制



私たちにできること

- ・定期的に海辺のごみ拾いや駐車場周辺の花植えを行い、夕日の美しい八代海を守っていきます。
- ・既存の活動団体等と連携して、眺望スポットや海辺の心地良さを皆さんに知らせていきます。

②干拓農地の“眺めの小路”

干拓農地に広がる 四季折々のグラデーション

干拓農地は、春は菜の花、夏はい草、秋は稲穂、冬は雪景色といった四季折々のグラデーションが奏でる田園景觀や、干拓事業の遺産である樋門群を眺めることができます。

先人から受け継いだ美しい干拓地の田園景觀を守り育てることが大切だと考えています。

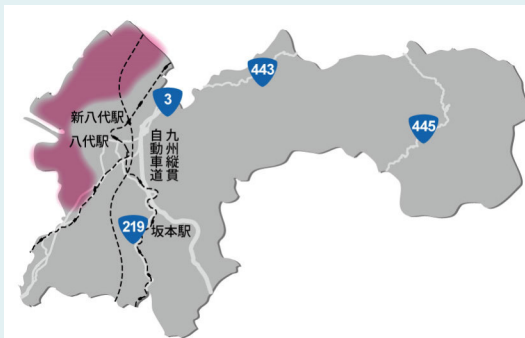
特性

四季折々の田園景觀が広がる干拓農地を通る“眺めの小路”です。

市の西側には球磨川等の河川が運び出す土砂によって形成された沖積平野と、16世紀後半から進められてきた八代海の干拓事業により、広大な八代平野が形成されています。

干拓農地では日本一の生産量を誇るい草や水稻・トマトなどの栽培が行われています。

また、干拓事業の遺産である樋門群があり、八代を特徴づける景觀のひとつとなっています。



景觀まちづくりのイメージ

土石類の採取や木材の伐採の際は、植樹等により、周辺景觀との調和を図る

周辺景觀と不調和な電波塔などの工作物の色彩・位置・規模の規制

広告物は必要最小限の数・大きさにするとともに、周辺景觀と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制

周辺景觀から突出した高さの建築物の規制

寺社・仏閣等の歴史的資源および鎮守の森の保全

周辺景觀と不調和な派手な色彩の建築物の規制

広がりのある田園景觀の保全

“眺めの小路”を中心とした草花による積極的な緑化の推進

樋門群の保全

水路など田園景觀の保全

私たちにできること

- ・“眺めの小路”や水路沿いの花植え、草刈り、石垣の清掃などを行います。
- ・眺望スポットや田園景觀を歩く心地良さをPRしていきます。

③山村集落の“眺めの小路”

棚田とともに四季を愛でる 谷あいの里

山間部は、棚田や段々畑など一体となった山村集落が点在しています。

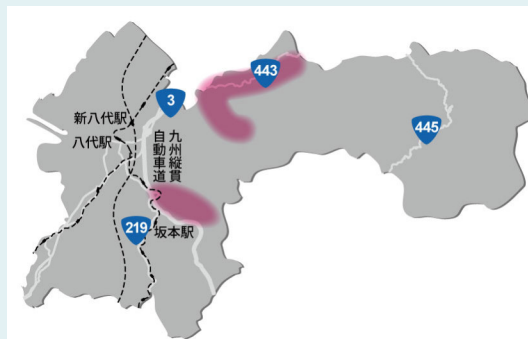
ゆったりとした時間が流れ、季節ごとの変化に富んだ山里の美しい景観を守り育てることが大切だと考えています。

特性

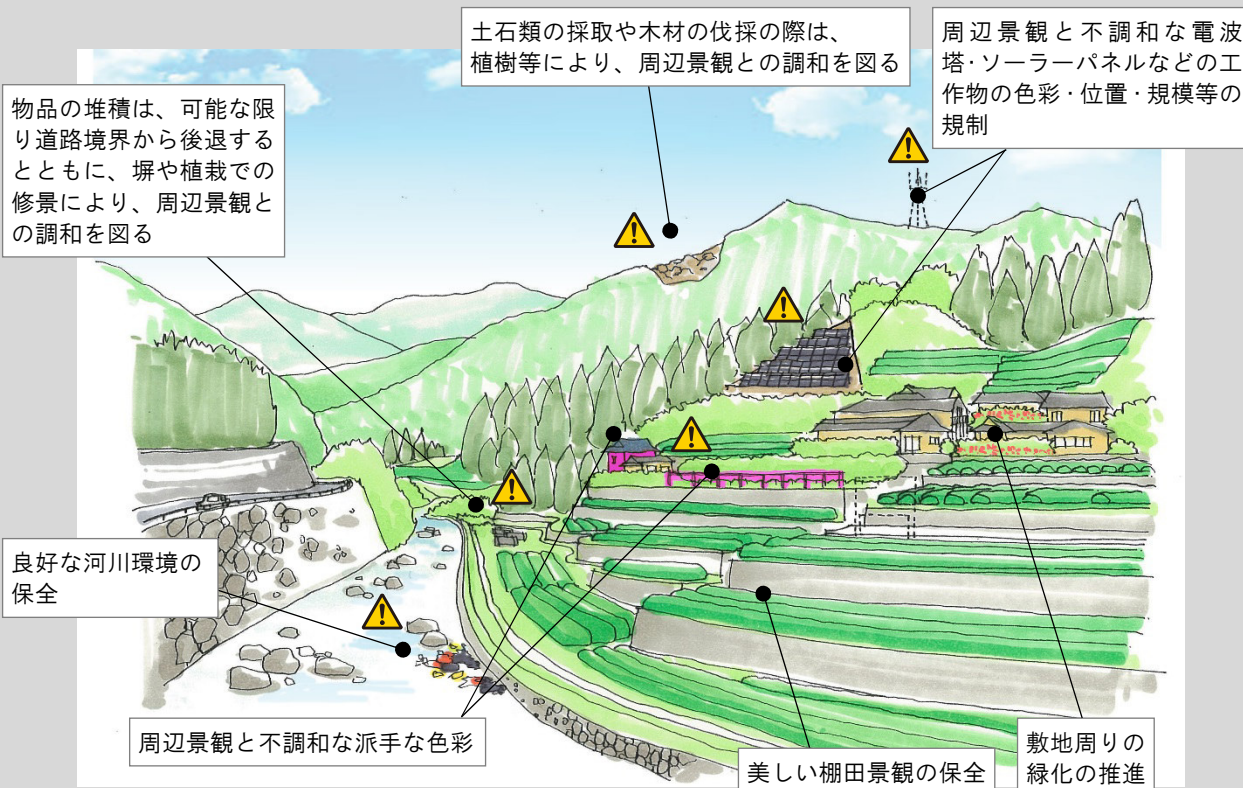
山間部に形成された山村集落を中心とした“眺めの小路”です。

市の東部は、九州中央山地国定公園や五木五家荘県立自然公園に指定された山間部となっており、四季折々の変化に富んだ緑の景観が地域の人々や訪れる人の目を楽しませています。

山間部には、美生の棚田をはじめとする生姜畑や水稻の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。



景観まちづくりのイメージ



私たちにできること

- ・ 河川の清掃活動を行い、美しい谷あいの水辺環境を守っていきます。
- ・ 四季折々の草花による敷地周りの緑化を行います。
- ・ 棚田や石垣を保全する活動を行っていきます。

④河川の“眺めの小路”

球磨川の悠久の流れに 寄り添い歩く散歩道

球磨川をはじめとする河川沿いは、多くの人々が散歩やサイクリングを楽しむ姿が見られます。時間や四季の表情とともに移ろいゆく美しい河川沿いの景観を、守り育てることが大切だと考えています。

特性

河川沿いの散歩やサイクリングを楽しむ“眺めの小路”です。

球磨川や前川、氷川、流藻川、水無川等の河川は、水と緑の景観軸を形成しています。

球磨川の悠然とした流れは、市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観や山並み景観などを遠望することができます。

河川沿いは、自然を楽しむ川辺の散歩道として人気があります。



景観まちづくりのイメージ

広告物は必要最小限の数・大きさにするとともに、周辺景観と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制

周辺景観から突出した高さの建築物の規制

周辺景観と不調和な派手な色彩の建築物の規制

土石類の採取や木材の伐採の際は、植樹等により、周辺景観との調和を図る

周辺景観に配慮した色彩や素材の柵とする

周辺景観と調和した休憩施設の整備

ゴミの清掃や除草による河川環境の保全

水辺に降りられるような親水空間の検討

河川沿いの緑化の推進

私たちにできること

・既存の活動団体と連携して、河川沿いの清掃や花植え活動を行い、美しい水辺環境を守っていきます。

⑤本町アーケード街の“眺めの小路”

みょうけん

妙見さんが通る 和モダンの本町アーケード

本町アーケード街周辺は、薩摩街道沿いをはじめ社寺や町家が多く点在し、八代の歴史を感じることができる商業空間となっています。八代城跡・松浜軒など一体となった「和の景観」づくりにより、統一されたまちなみづくりを進めることが大切だと考えています。

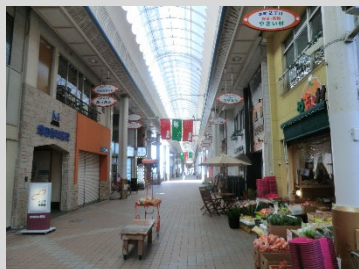
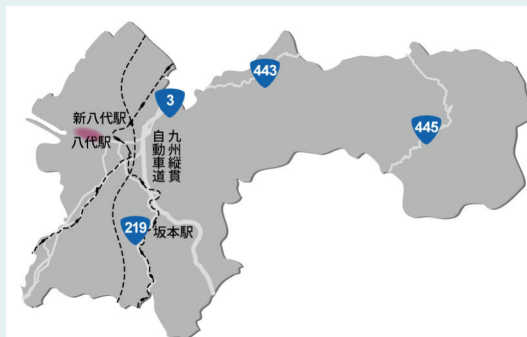
特性

全長約730mに渡る本町アーケード商店街を中心とした“眺めの小路”です。

本町アーケード商店街には、飲食店や衣料店などを中心に約150店舗が軒を連ねています。

休憩所や広場があり、周辺には社寺や町家も多く、八代の歴史を感じることができます。

また、商店街では「土曜夜市」などのまちの賑わいを創出するイベント活動が行われています。



景観まちづくりのイメージ

空き店舗等の活用促進や
ファサード、看板の統一による、
まちのにぎわいづくり

空き店舗のシャッター
に「妙見さん」の絵を描き、
八代ならではの演出する

八代らしい暖簾を使った和
モダンの街並み形成

店舗や敷地周りの
緑化の推進

畳のベンチなどを置き、
休みながら散歩できる歩
行空間の形成

店舗等と調和した、統一
感のある道路空間の整備

私たちにできること

- ・ 休憩施設の設置や店舗閉店時間の統一、お茶のサービスなど、訪れた人へのサービス向上を行います。

⑥日奈久温泉街の“眺めの小路”

とき 600年の刻を重ね 温かい人と湯のまち 日奈久

日奈久温泉街は、なまこ壁や木造建造物のまちなみが残り、日奈久温泉神社からは日奈久の市街地と八代海を一望することができます。統一された風情のある温泉街のまちなみや美しい眺めを守り育てることが大切だと考えています。

特性

日奈久温泉街の趣のある路地を中心とした“眺めの小路”です。

600年の歴史を持つ日奈久温泉は、熊本県内で最も古い温泉のひとつです。

日奈久温泉街には、なまこ壁や木造建造物のまちなみがあり、ところどころで小さなお堂や神社をみつけることができます。

栈敷の相撲場がある日奈久温泉神社からは日奈久の市街地と八代海を見ることができ、良好な視点場となっています。



景観まちづくりのイメージ

伝統的な様式の建造物の保全・継承

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

温泉街の風情と調和した色彩・意匠の建築物への誘導

温泉街の風情と調和した柵などの工作物の設置

案内板・自動販売機等は温泉街の風情との調和に配慮する

空調室外機は遮へいし、温泉街の風情との調和に配慮する

ベンチなどを軒先に置き、休みながら散歩できる歩行空間の整備

なまこ壁・白壁など伝統的な様式の建造物の保全・継承

空き家・空き地・空き店舗等の活用促進による、まちのにぎわいづくり

暖簾や灯籠・木材などを使った温泉街の風情がある街並みの演出

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

温泉街の風情と調和した道路空間の整備

私たちにできること

- ・温泉街の風情に気を配った和風のまちづくりをすすめ、植栽・敷地周りの緑化を行います。
- ・地域の歴史や眺望スポットを、住民の方や訪れた人にPRしていきます。

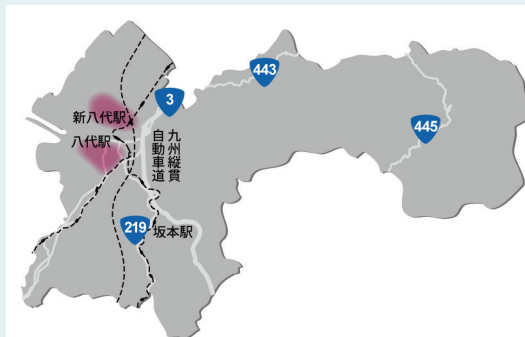
⑦郊外住宅地の“眺めの小路”

緑豊かなガーデンシティ

郊外部は、住宅地の開発が進んでいます。個人宅を訪れた方に見てもらいたいようなガーデンづくりに取り組むなど、緑豊かで潤いのある暮らしやすい環境づくりが大切だと考えています。

特性

郊外部の住宅地を中心とした“眺めの小路”です。
市街地周辺の郊外部では住宅地の開発が進み、公共施設の整備と併せて、くらしに潤いや安らぎを与える快適な環境づくりが求められています。



景観まちづくりのイメージ

広告物は必要最小限の数・大きさにとともに、
周辺景観と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制

周辺景観から突出した高さの建築物の規制

周辺景観と不調和な派
手な色彩の建築物の規
制

街路樹、植樹帯等の適切な
維持管理

美しい街並みの
保全・育成

ベランダや敷地周りの
緑化の推進

私たちにできること

- ・ まちの清掃活動や、四季折々の草花による植栽・敷地周りの緑化を行います。
- ・ 庭づくりの取り組みにより、緑豊かで潤いのある環境づくりを進めていきます。

⑧幹線道路沿線の“眺めの小路”

暮らしとにぎわい運ぶ やつしろの大動脈

幹線道路沿いは、商業施設が多いため、まちの賑わいが感じられ、来訪者の目にふれやすい「やつしろの大動脈」となっています。

沿道植栽帯の緑や賑わいある景観まちづくり、八代のよい印象を与える景観まちづくりを行うことが大切と考えています。

特性

人々の活動を支える幹線道路沿線の“眺めの小路”です。

市内を南北に走る国道3号や国道219号、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、県道八代鏡宇土線、東西に走る国道443号、県道八代港線などが、市の幹線道路となっています。

国道3号や県道八代鏡宇土線、県道八代港線などの幹線道路の沿道には商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。



景観まちづくりのイメージ

周辺景観から突出した高さの建築物・工作物の規制

広告物は必要最小限の数・大きさにするとともに、周辺景観と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制

周辺景観と不調和な派手な色彩の建築物の規制

ベランダや敷地周りの緑化の推進

街路樹、植樹帯等の適切な維持管理

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

私たちにできること

・四季折々の草花による店舗や敷地周りの緑化を行い、緑の連続性を守ります。

⑨八代城跡・市役所周辺の“眺めの小路”

いにしえ

とわ

古を今につなげる八代城跡を永遠のいやしに

八代城跡・市役所周辺は、加藤清正の家老であった加藤正方がつくった城の石垣やお堀、松浜軒、社寺、町家などの歴史的景観が残る八代市の中心部です。これらの歴史的な雰囲気を守り育てるとともに、新庁舎の整備と一体となった景観まちづくりが大切だと考えています。

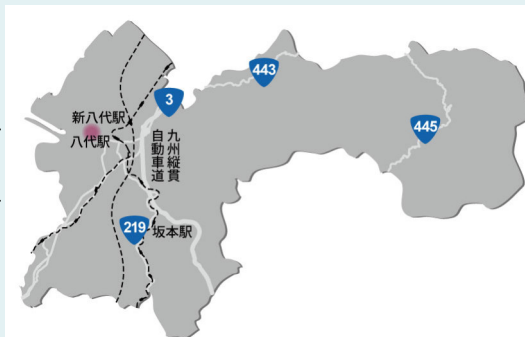
特性

八代城跡・市役所周辺の“眺めの小路”です。

市中心部では、薩摩街道を含む城下町として町が配置されてきたことから、八代城跡や市役所、本町アーケード商店街を中心としたエリアに市街地景観が広がっています。

八代城跡周辺には城郭の石垣やお堀、松浜軒、社寺、町家をはじめとする歴史的景観が残っています。

また、市役所は新庁舎整備が進められており、庁舎を中心としたエリアの景観整備に注目が集まっています。



景観まちづくりのイメージ

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

広告物は必要最小限の数・大きさにするともに、周辺景観と調和した統一感のあるものとする

周辺景観と不調和な派手な色彩・規模の建築物の規制

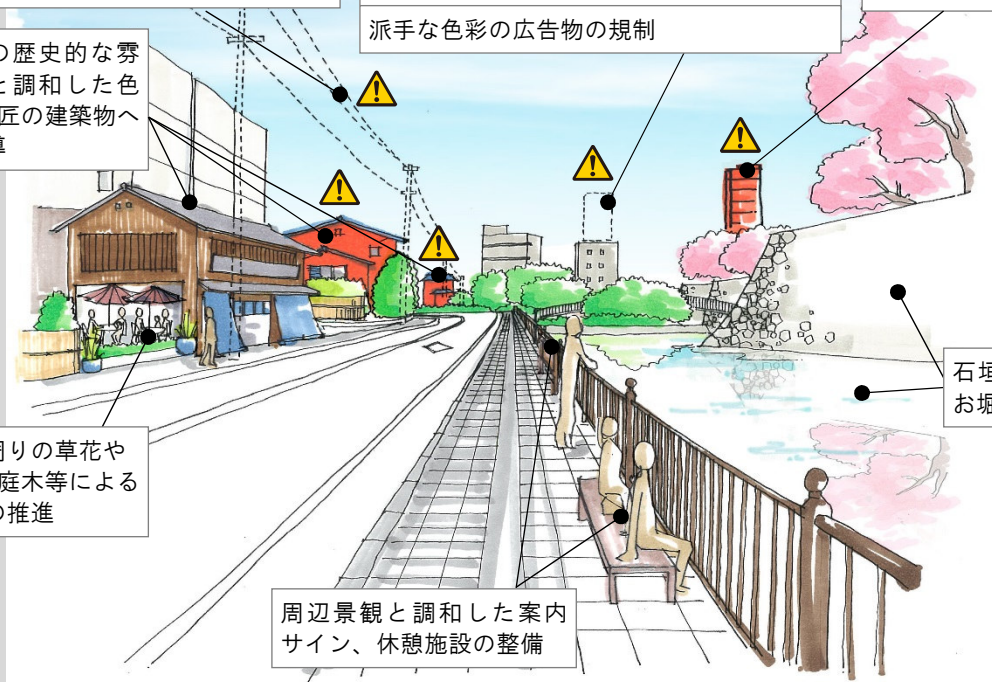
派手な色彩の広告物の規制

周辺の歴史的な雰囲気と調和した色彩・意匠の建築物への誘導

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

周辺景観と調和した案内サイン、休憩施設の整備

石垣の草取り、お堀の水の浄化



私たちにできること

- ・ 古くからある地域の歴史的資源を守り育て活用し、訪れた人にPRしていきます。
- ・ お堀の水をきれいにする活動や、四季折々の草花による植栽・敷地周りの緑化を行います。

⑩城下町の風情が残る街並みの“眺めの小路”

と き 時代をこえて城下町の風情が香る 薩摩街道

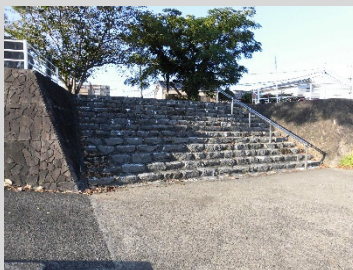
江戸時代の町割りが残る八代市の中心部は、社寺や町家、徳淵の津跡、蛇籠の船着場などの歴史的景観が残っています。古くから多くの人が行き交い、現在まで歴史を紡いできた資源や城下町の風情を守り育てることが大切だと考えています。

特性

中心市街地内の城下町の風情が残る細い路地を中心とした“眺めの小路”です。

市中心部には、江戸時代の薩摩街道を含む城下町の町割りが今も残り、市街地を形づくる基盤となっています。

社寺や町家が多く点在し、経済・産業発展の起点となった貿易港「徳淵の津跡」や蛇籠の船着場などの歴史的景観が残っています。



景観まちづくりのイメージ

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

町家・住居など伝統的な様式の建造物の保全・継承

街並みと調和した案内サインの整備

周辺景観と不調和な派手な色彩の建築物の規制

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

街並みと調和した道路空間の整備

私たちにできること

- ・地域の歴史を住民の方や訪れた人に知らせていきます。
- ・笹垣や草花の手入れをすすめ、城下町の風情に気を配った植栽・敷地周りの緑化を行います。

⑪妙見宮周辺の“眺めの小路”

門前町の面影映る 紙漉きの里 妙見さん

妙見宮の参道は、かつて門前町がありました。今も周辺には、紙漉き水路や春光寺、古麓稻荷神社などの歴史的景観が残っています。これらの歴史資源を守るとともに、門前町の風情を育んでいくことが大切だと考えています。

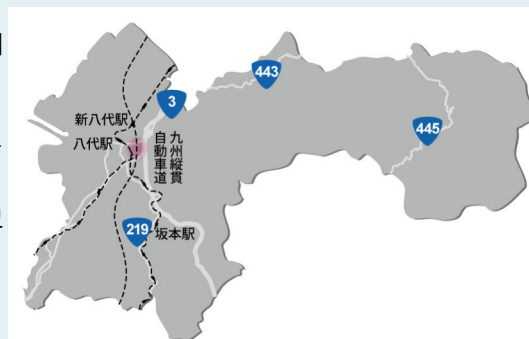
特性

「妙見さん」と呼ばれ親しまれる八代神社（妙見宮）周辺の“眺めの小路”です。

ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭や八代神社氷室祭が行われる時期は、多くの人が訪れ、賑わいをみせています。

紙漉き水路、春光寺、古麓稻荷神社などの風情ある歴史的景観が残っています。

古麓稻荷神社からは八代の市街地を見渡すことができ、良好な視点場となっています。



景観まちづくりのイメージ

歴史ある街並みと調和した色彩・意匠の建築物への誘導

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

周辺景観から突出した高さの建築物の規制

ベンチなどを軒先に置き、休みながら散策できる歩行空間の形成

提灯や灯籠を使った歴史ある街並みの演出

空調室外機は遮へいし、歴史ある街並みとの調和に配慮する

歴史ある街並みと調和した柵などの工作物の設置

紙漉き水路の保全・継承

歴史ある街並みと調和した道路空間の整備

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

私たちにできること

- ・ 妙見宮周辺の歴史的資源を守り育て活用し、訪れた人にPRしていきます。
- ・ 紙漉き水路の水をきれいにする活動や、四季折々の草花による敷地周りの緑化を行います。
- ・ 祭りの時期には提灯などを設置し、歴史的なまちなみを演出します。

⑫鉄道沿線の“眺めの小路”

ばんべい ゆ かお 車窓から広がる景色と晩白柚の薫り

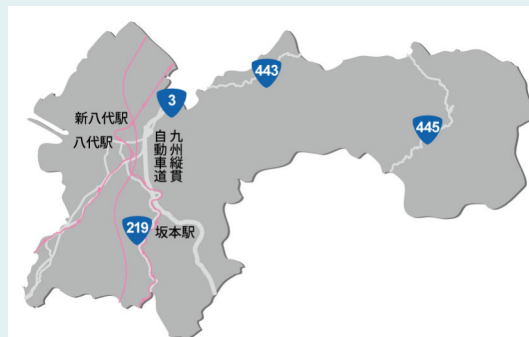
鉄道沿線は、ＳＬの走る風景や鉄道と晩白柚畑などの眺めを楽しむことができます。車窓から広がる干拓地や八代海、晩白柚畑や球磨川の清流など、八代ならではの美しい景観を守り育てることが大切だと考えています。

特性

市内を南北に走る鉄道沿線の風景を楽しむ“眺めの小路”です。

ＪＲ鹿児島本線、肥薩おれんじ鉄道、ＪＲ肥薩線、九州新幹線の車窓からは、広大な干拓地や八代海、晩白柚畑や高田みかん畑、球磨川の清流など、八代ならではの美しい景観を眺めることができます。

球磨川第一橋梁を含むＪＲ肥薩線は、「日本の２０世紀遺産２０選」に選定され、ＳＬの走る風景は、市の特徴的な景観の一つとなっています。



景観まちづくりのイメージ

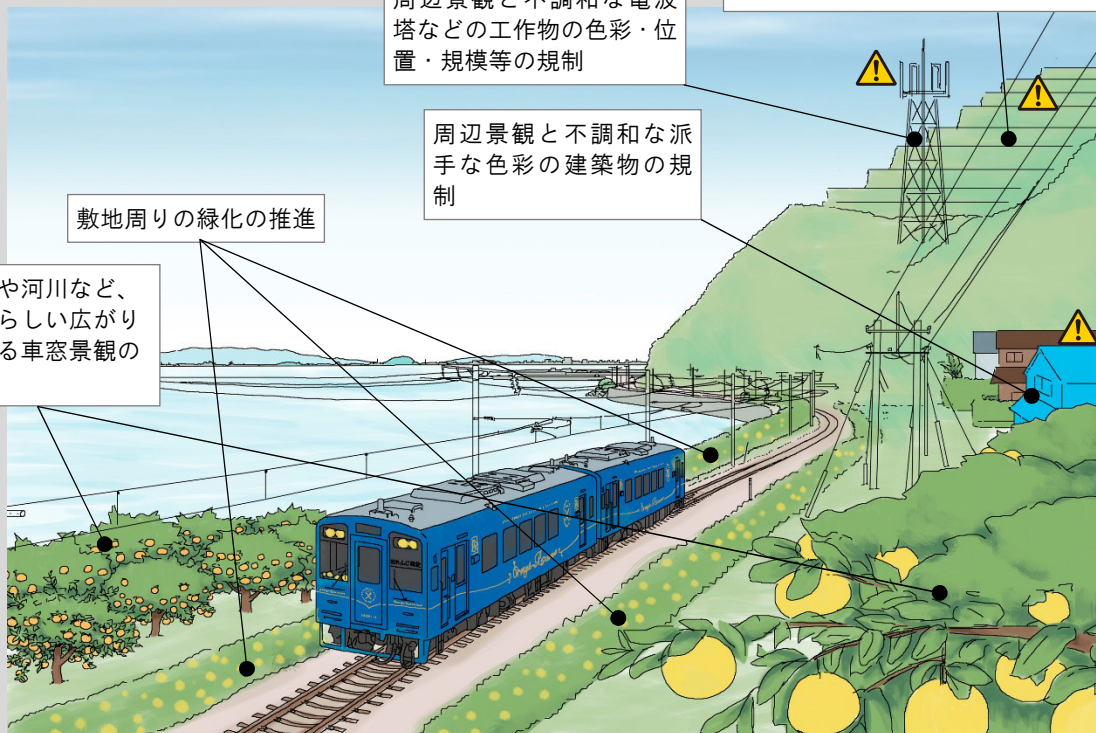
土石類の採取や木材の伐採の際は、植樹等により、周辺景観との調和を図る

周辺景観と不調和な電波塔などの工作物の色彩・位置・規模等の規制

周辺景観と不調和な派手な色彩の建築物の規制

敷地周りの緑化の推進

田畑や河川など、八代らしい広がりのある車窓景観の保全



私たちにできること

- ・ 鉄道沿線の敷地周りの緑化を行い、緑の連続性を守ります。
- ・ ＳＮＳ等で情報発信を行い、鉄道の眺望スポットや撮影ポイントなどをＰＲしていきます。

5. おわりに

景観まちづくりセミナーや景観まちづくり会議を通じて、大切に守り育てていきたい「わがまち八代」の“お宝景観”を再発見し、より良くするためにはどうしたらいいか？を考えてきました。

会議では、私たちが日頃から感じている市の景観や自然・歴史・文化などに対する熱い思いを共有しました。また、景観について共に学び、意見を出し合うことで、いろんな地域の人と出会うきっかけにもなりました。

景観まちづくり会議では、“眺めの小路”に対する意見の他にも、景観全般やまちづくり全般に対する意見が挙がりました。その一部を紹介します。

(1) 景観全般やまちづくり全般に対する意見

1) 景観全般に対する意見

- 全体的に花や緑が少ないので、公園や緑地帯に花を植える取り組みが必要である。
- 水島や松浜軒など、歴史的資源の周辺で景観まちづくりを行う際は、その歴史を知ったうえで、景観まちづくりを行うことが大切なのではないか。
- 不要なものをつくらないという「引き算」の景観づくりも必要である。
- 人が集まるようなインスタ映えするフォトスポットが必要である。
- ゴミのポイ捨てや犬のフンなど、マナーの向上も景観まちづくりには必要である。
- 子供達にも景観まちづくりに興味を持ってもらうために、教育の一環として景観学習会を実施してほしい。
- 八代の知られざる景観を多くの人に知ってもらうために、写真展を開催してもらいたい。
- 景観を守りたい気持ちを育てることが大切である。
- すだれやのれんで、まちなみの統一感を出すなど、あまりお金を使わなくてもできる景観づくりをすすめる。

2) まちづくり全般に対する意見

- 八代外港のクルーズ船を自由に見られるスポットづくりが必要である。
- 八代城跡周辺などに、歴史、文化、旧町名などの案内板やサインを設置したほうがよい。
- 妙見祭以外でも砥崎の河原の活用を検討してほしい。
- 八代城跡にイベント広場やランニング用の距離標示を設置するなど、市民が集まる仕組みづくりが必要である。
- 八代城跡のライトアップをもっとPRしたほうがよい。
- まちづくりを円滑に進めるためには、行政も市民も横のつながりが大切である。
- 八代平野の石積みの活用を検討してほしい。
- 干潟を整備して、シャク取り等を楽しめる場所にしてはどうか。

(2) 会議を終えた感想

全ての会議を終えた、私たちの感想の一部を紹介します。

1) 会議に参加した感想

- 色々な価値観や感性があり、意見の多様性に考えさせられました。
- 八代の景観というテーマで問う会議に参加して、各参加者から多くの意見が出され、改めて八代の良さを感じることができた。
- 景観まちづくりに初めて参加し、学ばせていただくことにより、景観に対する関心と興味がぐっと変わってきました。
- 私達の議論が空にならないことを期待しています。
- いろんな「景観」を拝見しました。地域に帰り、この経験を活かして行きたいと思います。
- 景観まちづくりを観光につなげることが重要と感じた。
- 八代の景観まちづくり会議に参加して、八代のことをもっと好きになりました。皆様のご意見を聞くうちに、八代に住んでいるのに、知らないことがいっぱいだなあと、勉強不足を感じました。これを機にチャレンジして、八代マップに沿って出かけて行きたいと思います。
- 多くの事を知ることが出来ました。関係機関の連携の必要性を強く感じました。
- 若い人が少なく、今から頑張ってくれる人の意見が聞けなくてちょっぴり残念に思いました。
- これからも景観を守るため、市の方で条例を作って守る事が大事。市民も一緒になって守る。

2) 今後の景観まちづくりへの意気込み

- 私は文化財・歴史を市民や多くの人たちに知って欲しい、感じて欲しいと思って仕事をしている身なので、今後も積極的に関わられればと思います。若者の視点、やわらかい思考を入れこめたらと思っています。
- 具体的で実現性の高い景観まちづくりが出来るよう、アイデア、意見を出す様努力します。
- 今回の会議で出された意見を取りまとめた結果をいかに実現するのか。これは市民の協力がなければ成し得ないことであり、町内会等を通じPRする努力が必要と感じます。
- 一人でも多くの市民の賛同を得られるようにしたい。
- 食文化、うなぎ、このしろ寿司のPR。
- 地域から少しずつ始めて行きたいと思っています。
- フットパスコース、景観の法整備が早く必要と思います。
- 統一した「まちづくり」は大変良いことだと思います。ただ、知らないこと（地区）が多く、まず知ることが大事。
- 日常生活の中で、我がまちを見る目が変わったと思います。
- まちづくりは一人ではできない事なので、今回の提案内容も他とも共有できる様に心がけていきたいです。
- 八代は観光する所も少なく、大型客船が来ても八代は素通りです。皆さんからいっぱい意見も聞かせて頂いたので、アーケードもちょっぴり頑張ってみようと思いました。
- これからも景観まちづくり会を作って定期的に話し合いを続けることも必要だと思います。

（３） 今後の活動に向けて

景観まちづくり活動の主役は、私たち市民です。

八代市の景観が、より一層魅力的なものになるよう、この会議で出会った方々と横の連携を強め、“眺めの小路”を活動の舞台として、身近なことから、出来ることから、景観まちづくり活動に取り組んでいきます。

参考資料

[八代市景観まちづくり会議のメンバー]

※五十音順、敬称略

(自然・みどり班)

井本 一治	岩崎 龍一	梅本 英嗣	川口 芳人
小嶺 俊英	白石 誠	白木 淳一	土田 一好
友澤 健治	長石 祐司	花岡 賢一	平岡 健三
本田 あゆ子	松浦 ゆかり	村上 武	

(生活・まち班)

荒金 左年	井戸 瑛	宇野 親子	榎田 ゆかり
岡田 敏代	甲斐 慎太郎	甲田 智之	酒井 豊
櫻井 力助	真田 智子	〆 一仁	下山 修生
白井 雄二	高岡 薫郎	中村 恵理子	那須 清美
濱崎 祐次	藤澤 智博	松田 浩典	松本 一俊
松本 啓佑	松本 健志	蓑田 佳代子	宮崎 浩二
三由 康裕	森山 正規		

(歴史・文化班)

岩本 健治	内田 民子	内山 義博	江里口はるか
大谷 栄樹	小野 琴女	角 義雄	久木田秀子
小寺 ヤエ子	坂口 征喜	柴崎 政俊	竹内 幹雄
谷口 邦昭	中野 良樹	中村 重之	橋本 一一
堀内 浩光	原岡 弘治	松山 丈三	蓑田 亮太
麥田 康利	盛高 経博	盛高 麻衣子	森山 学
森 浩喜	米崎 寿一		





八代市景観まちづくり提言書

平成31年1月
八代市景観まちづくり会議

表紙・裏表紙の画像は、第1回八代市景観まちづくり会議で挙げられた景観資源の写真です。